

学習内容報告書 フォーマット

| | |
|-----|----------------|
| 学校名 | 大阪府泉南郡岬町立深日小学校 |
| 授業者 | 岡田良平 |

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

長松海岸に行こう

1-2. 学年

第3学年・第4学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間・社会科・理科

1-4. 単元の概要

深日小校区にある長松海岸は大阪府唯一の自然海岸である。しかしながら、児童やその保護者らがそうした海岸で磯遊び等をするのではなく、18人（3年生11人・4年生7人）中、「長松海岸で遊んだことがある」と答えた児童は4人のみであった。そこで、大阪府水産技術センターの協力を得て、児童らを磯遊びに連れていくことを企画した。本研究には当初この企画はなかったが、大阪府における緊急事態宣言が長引く中で、児童の学習にご協力いただくこととなり実現することができた。当日は、感染対策を十分に行った上で、着衣をラッシュガード等にするなどの安全対策を取り、専門家の指導・助言のもとで長松海岸における海の生物の採取と観察、潮の満ち引きなどについて学習した。また学習した内容を模造紙にまとめて水産技術センターに掲示している。





1-5. 単元設定の理由・ねらい

社会科で中学年に配当される地域学習をベースにし、第3学年では「身近な地域の市町村の様子について」の学習として、第4学年では国語での「相手にわかりやすく伝える」単元の題材として大阪府唯一の自然海岸である長松海岸について、児童が知り・発信することを通して地域の海洋文化や水産資源の豊かさの再発見することを目的としている。本授業では安全と学習面のサポートとして大阪府水産技術センターの職員をゲストティーチャーに招き、児童の興味関心を引き出すだけでなく、学習の深まりにつながるようしている。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・探究的な見方・考え方を働かせ、教科等横断的な学習を通して、地域の魅力を知り・気付き・自然や人とのつながりを通して、協働的に取り組むことでよりよく問題解決をしていく能力の育成
- ・経験した知識を友達等と協力して、グループごとに模造紙にまとめることで、「書く」・「表現する」に関する技能を育成する

1-7. 単元の展開 (全 10 時間)

| 時数 | 学習活動・主な内容 | 教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等 |
|----|--|---|
| 1 | 深日漁港での潮の満ち引き・堤防の内側と外側における生物や海中の様子の違いについて | <ul style="list-style-type: none"> ・睦谷一馬さん（大阪府水産技術センター）による深日港内での海の様子に関する解説 ・教員はサポート役  |
| 1 | 深日校区内にある人工干潟での水生生物の採取と観察 | <ul style="list-style-type: none"> ・睦谷一馬さん（大阪府水産技術センター）による解説 ・教員はサポート役  |
| 2 | <p>長松海岸での水生生物の採取と観察</p> <p>磯遊びについての諸注意の後、グループごとに分かれて網などの道具を持ち、水生生物の採取と観察を行った</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・担任（全体指導・グループでの指導） ・養護教諭（児童の看護） ・睦谷さん（水生生物の解説） <p>使用教材 網、水槽、貝類を採取するためのマイナスドライバー、各グループに1台のカメラ</p>  |

| | | |
|---|-----------------------------------|---|
| 5 | <p>グループごとに分かれて模造紙で学習した成果をまとめる</p> | <p>・担任による指導 使用教材 模造紙・絵具・ペン・新聞紙・テープ等 睦谷さんにも再度、来校いただき、児童たちの様子を参観していただいた。</p> |
| 1 | <p>学習した成果の発表会・掲示物の掲示</p> | <p>水産技術センターに行って、学習成果の報告と模造紙を掲示してもらえるように依頼</p> |

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

・海の生き物を実際に見て、触れることで海の生物や自然への興味関心を持つ

2-3. 本時の展開

| 主な学習活動 / 反応 | 教師の指導・支援 / 評価の視点（方法） |
|---|--|
| 1. 深日漁港内で堤防内の海の様子を観察 堤防の内側と外側で海の中の様子（生物の多さ等）が 違うことを知る | 1~3 の内容はT 1 は睦谷さんによるもので、教師は サポート役の分担とした。学習や経験した内容につい て後日、模造紙にまとめることを伝え、各グループに 1 台のカメラを渡した。 |
| 2. 人工干潟での水生生物の採取と観察 ※睦谷さんによる干潟や水生生物に関する解説 児童が実際に魚を触ってみる | 深日漁港・人工干潟・長松海岸の 3 か所は隣接してお り、移動も容易 |
| 3. 長松海岸での水生生物の採取と観察 ※睦谷さんによる自然海岸と人工海岸の違いや水生 生物に関する解説 ※採取の仕方や安全面に関する指導・助言 | <評価> ・児童が海の生き物を実際に見て、触れることで海の 生物や自然への興味関心を持つことができたかどう か ・模造紙に児童が経験を通して知った様々な情報が どのように知識・理解として表現されるか |

3. 今回の活動の自己評価

深日漁港・人工干潟・長松海岸の3か所は隣接しており、児童もその場所は知っているものの、ほとんどの児童がそれらの場所で釣りや磯遊びをしたことがなかった。児童にとって深日漁港の堤防の内側と外側で海の中の様子が違うということ、干潟を整備する意味やそこに住む生物は種類が違うこと、自然海岸で採取された生き物の多様性について初めて知ることばかりだった。身近な地域であるにもかかわらず、実際には遊んだり、体験したりする機会はほとんどない。今回の学習を通して、海洋教育のみならず自分たちの住む地域の豊かさや多様性を知ることができた。

特に印象的だったのは、アメフラシとその卵を発見したことである。児童は興味津々で、アメフラシとその卵の鮮やかな色に感動していた。しかし、それが可能だったのは水産技術センターの方のサポートがあったからである。生き物を観察する際に危険な生き物かどうか、どういった点に気を付けるのかといったことかだけでなく、磯の歩き方、潮の満ち引きなどトータルでの安全に対する知識や声掛けがあったことで実現することができた。また、深日漁協の協力によって自然海岸等への立ち入りの届け出等のサポートもあった。

4. 今後の課題

児童が磯遊びを経験したことが無いのと同様に、教員が磯遊びを経験したことが無い。校区内にこうしたフィールドや生きた教材があっても安全面を考慮すれば、例え校区であっても学校独自での実施は不可能だと考える。特に教員の異動が短期間になっている現状では、安全確保が最優先となる磯遊びの指導にあたっては、実際に経験を通して得られた知見が重要になり、単なる知識の引継ぎだけではかえって危険である。潮の満ち引きや危険な生物の判定と万一、接触した際の対処など専門家によるサポートが不可欠であると考えられる。しかし、そうしたサポート体制が構築できれば非常に充実した学習になることが可能である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。